

桑港の震災に關する舊記を檢閲して

M K 生

西曆一九〇五年即ち我が明治三十九年四月十八日桑港震災に於ける舊記を檢閲し、心附きしもの一二を録して參考に資せんと思ふ。

◇勞働者を含める罹災者の救護

- 一、燒殘區域の住民 約十萬人
 - 一、焼け出されし市民 約三十萬人
- 右に付桑港より加州内各地に到る渡船料及汽車賃を、震災當日より悉く無料として、該罹災者を各地方に分散せしめた其の結果、
- 一、災後十日間に桑港を去りし者二十二萬五千人
- 但右の内には災後他地方より入り込みて又立退きし者もあるべく、而して一旦立退き追つて

入り込める罹災者も出てたのである。

- 一、二月二日に救恤部から食糧の配給を受けし者二十七萬九千六百人。
- 一、五月十二日には減して十六萬四千人（内五萬人は窮困者）
- 一、收容所は五月十五日以後十五個所に結集せしめ、多きは一個所に四千人を收容した。
- 一、糧食の配給も五月十日迄にて休止し、十一日より七ヶ所に無料食堂を設けて給與した。
- 一、災後約二ヶ月後には總ての收容部を殆ど解散し、バラツクに來住する者には五弗にて其假舎を讓渡し、之を他に移し建てんとする者には三百弗で賣渡したのである。

一、食料は災後二日目よりポツ／＼配給し、罹災者用天幕は、災後四五日目より行き亘つた。

◇戒嚴令施行中の概況

- 一、火災は四月十八日午前五時半から起つて、延焼三晝夜に及んだが、正式の手續完了の上なるや否やは知らざるも郊外プレシデオ兵營より軍隊直に出動して、同日午後三四時頃には重要街衢延焼地域に悉く交通遮断を行ひ、且軍隊自身に延焼地附近を破壊して、防火作業に従つた。
- 一、暴利取締は翌朝頃から之を勵行して、即刻二三の奸商を槍玉に揚げ、且つ十九日以後は陸軍糧餉部に於て市内各所に焼け残れる食料品店に就き徵發を行ひ、部員が店員に代はりて食料品の販賣に従ひ、以て平價の持續を計つた。
- 一、應急救濟の一手段として勞役を徵發した、即ち男子で勞働に堪へ得る者には貴賤貧富を問はず手當り次第に二時間なり三時間なりの勞働を命じ、荷物の運搬及び死骸の發掘等に從事せしめた。
- 一、警察力の中止に乘じ強盜、強姦行はれて、市

内の哨兵は見付け次第之を銃殺した。此くて五月二十日の一日丈にても死者の指環又は寶石貴金屬を奪はんとし、又は抵抗力なき婦人に暴行を加へたる爲銃殺せられた者が十六人に及んだ一、更に市民を恐怖せしめたるは哨兵其者の暴行である、此等の中には一夜造りの義勇兵もありしやで面白半分に市民を試めし斬りする者すらあつた。

- 一、戒嚴令は四月十八日より六月十五日迄約二ヶ月間施行した。
- 一、戒嚴令中は勿論、其の撤廢後一ヶ月餘は市内にて一切酒類の販賣を禁止した。

◇戒嚴令撤廢後の無政府状態

- 一、戒嚴令撤廢後、尙民兵三大隊かを若干期間存置したるもの如し。
- 一、然るに此機に乗して燒失區域の荒涼たる光景を眺めつつ、無聊に苦む罹災壯丁中には、漸次暴行強盜等を行ふ者が出て來た。
- 一、六月中旬、日本政府より調査の爲派遣せられて來着したる大森、中村兩博士の如きは、燒

跡踏査中投石毆打せられた事があつた。

一、九月末には日本人の經營に係る、金門銀行の宗方支配人は、白晝銀行に於て強盜に撲殺せられ、行員佐々木某も又重傷を負つた。

一、十月頃には白晝強盜横行し、殊に燒却の假舎に日本人の開業したる洋食店、風呂屋等の破壊せらるるもの多く、遂に日本人學童を公立小學校より放逐したる所謂學童問題を惹起するに至つたのである。

◆附記

震災災當時の救護事務は

a 米國陸軍省主任となり、

b 米國赤十字社桑港支部副となり、

○ 桑港市役所及桑港顔役より成る救濟委員會之を助けたるものであるが、死傷者の員數は遂に發表せられずして已んだ蓋し右を發表するは桑港復興策に有害ならんを恐れたるに由るのである尙此震災は今回の大震災と殆ど同様であつたので桑港が之に處して經濟的財政的政治的に如何なる處置をとつたかは東京、横濱の再建に

對して、參考となるべき點が多いと思ふから、序ながらこれを左に附記する。

先づ第一に人心を沮喪せしめざるため、名士や宗教家や新聞が大いに叫びかけた事、第二に再興資金を得る方法を講じまづ保險金を取る大運動をしたことは、丁度東京の今の状態とよなしく、其保險總額は一億一千三百四十四萬ドル餘であつたが百廿五保險會社中つづれたものも多く、中に保險額の半額を拂つたものもあつた、ドイツ法廷はハンプルグ保險會社に支拂ひを命じ、半額を拂つたが中にまた全額を支拂つた會社もあつた。第三に有力者を通じて懇請し東部米國の資本家ヴァンダートリツプ、ロックフェラー、ハリマンその他多くの大資本家を合し、大資本團を組織せしめ、桑港投資團と稱して、ハリマン氏自ら投資を有力實業家の間に説いたが、桑港は労働黨跋扈の中心ゆゑ投資は危険といはれてゐたが、つひに話しを纏め大々的に應援するに至つた。第四には聯邦政府が現金で八百萬ドル及び桑港にあつた聯邦政府所屬の建築物即ち無線電信局や兵營や種々の建築

物を提供し、この價格を合せて合計二千萬ドルを支出し、速にこの金が桑港で使用出来るやうにした。第五に資本家等を獎勵して建築を盛んにさせることにした。

救濟寄附金は總計で八百萬ドルに上り、四十日前後で大抵救濟が完了し、内三百萬ドル位は家屋建築費に費した。市内電車電信電話等の機關復舊をいそぎ迅速に完成せしめ、銀行支店を各街區に建造して支拂ひに便せしめ、外來の資本吸收策として擔保品課税を厲行せず、課稅率を財産百ドルに對して一ドル卅三セントとした。酒場營業免許税を三倍にし年五百ドルにしたが、他の營業税は輕減の方針に出た。バルチモアにおける大火の際は火災後十四日にして商店の開業する者があつたが、桑港は三日目から店を開くものがあつた、火災後の難問題は家賃暴騰であつた、十年間に建築は大體出來上がり桑港大博覽會當時の盛御都市となつたのである。これについて最も注意すべきことは桑港市民が全く政争をやめて協同一致し、機會ある毎に各種の集會や記念祭等を

出來るだけ多く桑港に開かせ、世界の人々を集めるに努力した、それで色々な博覽會のやうなものは何か名義をつけて、出來るだけ多く桑港にひるひ込むやうに、殊に火災當時汽船會社の寄港地を他に奪はれないやうに運動したことは、非常なる努力であつた。火災後直に投資家團は再建費を二億萬ドルと見積り、しかしてまづ第一に道路に一千萬ドルを費す計畫であつた、臨時建築の家は道幅の一倍半では建てさせぬやう市參事會で決定した、この假り建築は漸次に耐火的の家に變更せしめ、その方針を遂行して今日の状態となつたのである。震 當時水道管破裂の問題は東京におけると同様やかましい問題であつただけに、桑港市當局者は、特に水道に對しては大設備を施した、その結果保險率は非常に安くなり、市民は經費を節減することが出來た、總ての政治商業機關を他へ移さぬことを以て重要な眼目として努力したのであつた。

一般消防に就て (上)

警視廳消防部長 緒方 惟一 郎

たいして御参考になる程のことでもありませんが、私の今ま、経験しました事やら、歐米の状況を見ました事やら將來どういふ風に改正したら善からうかといふ希望を一應述べて見たいと思ひます。

▽消防に就ての統一が立て居ない

元來火災消防が主たる題目であります、これに附属して道路、家屋、水利、機械の配置等についての事柄も頗る秩序なく複雑になるかも知れませんが申上げますが、今日の状態は火災消防についての統一といふものは餘り立つて居ないやうに思ふ、内務省に於ける統計の如きも一年前の全國の統計すら見ることが出来ない、保険協會保險會社の如きものは成るべく手近い統計を見て、種々な計畫を立てたいでせうが、今日の状態ではその邊で困つて居る、現在に於て日本全國の火災状況を知らぬといふなれば大正七年、八年位のところでないと思ふ、頗る困つた話です、外

定の權威のある検査をして、これに合格した者にはスタンブでも捺してやる、さうすれば安心が出来ると思ふ。

▽家屋の自衛設備が滅茶苦茶だ

次に家屋に於ける自衛設備、これも滅茶苦茶勝手放題で自分の家を建てるのに防火設備をするには金が掛るから成るべくはこれを免れやうとして、勝手な家を建てる。この儘に放つておけば大變なことになる、折角の消防設備も餘り効かないといふ事になつて來ます。要するに私の希望としては内務省なら内務省その他何處でもよいから、中央にこれを統一する火災防止局、或は防止課といふものを置く必要があると思ふ、今年は衆議院の或る部分にその同感の人が出て建設案を出して火災防止局の設置をして貰ひたい今日のやうな地方の統一では將來の損害を防止するといふことは覺付ない、何とか考へて欲しいといふ譯でありましたが、今日のやうな緊縮の方針を取つて居る際に於ては、直にこれが採用されるかどうか、私には分らないが必要は確かにあると思ひます。

▽防火設備の沿革

ここに防火設備の沿革をお話をしたい、大體を申せば六大都市その他に於ける大體の方針標準はこれは獨逸系か、

國の状況は一年末の翌年三月には總てのものを統計に擧げて居るのであります。

現在の規則としては勅令的の規則として、六大都市に對して直接消防規程があるし、その他明治二十七年に於ける消防組規則が基本になつて居るやうな状況で、その地方に於ける經濟状態、富の程度によつて無論地方的に違ひますけれども大體に於て現在の状態から見れば二十七年の規則では盡して居らぬ、その不備は府縣令によつて補足して居る従つて區々になつて、各府縣統一が保たれて居ない、また消防器具、機械の如きも種々雑多であつて、何處で調査し何處で検査したのが信用が置けるか殆ど地方ではお困りだらうと思ひます、自前勝手な唧筒屋が猛烈に運動にやつて來て、何れも我田引水をやつて競争をする、ウツカリすれば大變な唧筒をあてがわれる、斯ういふやうなことは何處にか東京なら東京、大阪なら大阪、或は京都、名古屋といふやうな處に技術員を置いて、度量衡を検査する如く、一

出て居るので、輸入機械自動車唧筒類にしてもその他の物でも、何れの國でも製造すればよい、その元は組織だつた獨逸から始まつて居る。また機械の配置、定員の配置消防署の配置といふやうな方面の標準も獨逸から始まつて居る、それで英米獨逸を廻つて見れば皆同じやうなことを何處でもして居る。臨時招集などをやつて見せて呉れて、如何にも自分と居る。臨時招集などをやつて見せて呉れて、やうなものでそれは出所が同じだから似て居るのであります。而して一番初めに歴史家の書いたものは西暦一世紀には羅馬といふものは餘程進んで居つたものと見へて、消防隊を組織して今日でもポンペーあたりの遺物を掘返して見ると、その設備の跡が出るといふ事であり、丁度紀元六十四年に羅馬に大火があつたといふことで、八日間に亘つて、全市十四區に分れて居つたのが十區だけ全焼したといふことで、この火災に鑑みて、非常に施設が完成したといふ簡単な記事があります。

▽倫敦の消防

歐洲の中で一番強國である倫敦の今日まで進んで居る消防の状態を簡単に申上げますと、紀元七百九十八年に倫敦市全部が焼けたことがあります、それから九百八十二年に市内目抜き場所が燃へたことがあります、千六百六十六

寧ろ二月には四晝夜に亘つて倫敦に大火があつたこれが有名なる倫敦の大火として油繪やら、寫眞によく出て居りますが、倫敦の大火といふのはこれをいふので、その翌年千六百六十七年に始めて、この大火の状況に鑑み、消防隊を組織した、然して二十年を経て始めて火の見櫓といふものが出来た、遅々たる進歩で一八六〇年に消防條例といふものが出来た、その前即ち一八三二年に倫敦火災保險協會といふものが出来た、その保險協會が直接火災の利害を被ることが深酷であるから、私設的の自分の消防隊を拵へた、その時分には火事のある毎に出場した人間に對して出火出場手當を拂ふといふ方法を取つて居つた、翌年始めて獨立の消防隊を國費で拵へた、當時の經費は一ヶ年八千磅十八箇所に派出所を置き、所屬員は八十名であつた、其から一八六〇年に消防條例が出て、こゝに防火調査委員會といふものを拵へて、年々二萬五千磅の國費を以て補助し、派出所も二十箇所にする、所屬員も百二十七名にするといふ、而して一方に於ては保險協會の施設である消防隊がやはり別働隊として働いて、東京の消防組員みたやうな形になつて、尤も保險協會の消防隊でありますから、保險契約の一番大きい市街地にこれは設けられて、保險契約の少ないところには關係しなかつたが、それまでは純粹の警察所屬であつた、一八六五年の消防隊條例といふものを拵へ

あり、誤報もあるものと思はなければならぬ、損害の巨積價格では百八十九萬七千七百四十一磅で、この磅を日本の貨幣に換算すれば無論磅の方は多いけれども、英國の磅はやはり單位で、日本の一圓位に考へて居ります、假に圓と考へれば東京の損害よりも倫敦の損害の方が少ない、尙序に消防に直接御關係の方もあるかも知れませんが、付加へておきます。消防署に居る丁度日本の消防手と同じで、その監督は丁度日本の東京の消防手十二人について一人居る。その上に消防司令、或は消防司令長といふやうな階級があつて、數區の方面に倫敦市を分つて、而して各方面に方面監督といふやうな者が置いてある。その下には屯所が數個置いてある、唧筒一臺は十二人で動かすことになつて居ります、この人員の損害は大正九年度一ヶ年に百九十三人負傷して居る、一般人民の負傷した者は三百七十五人、死だ者は所屬員以外百五十三人でありました、使用した水は百十四萬二千六百六十八噸といふ分量になつて居ります、英國の大體はこんなものであります。

▽次は市我古

次に進歩の激しい米國はどうか、紐育、桑港と方々あります、東京に一番類似して居る者は市我古だと思ふ二百七十萬ばかりの人口があり、面積も東京より少し廣いが、

一般消防に就て

五〇
て、市長の下に屬せしむることになつた、今日では市に屬して居ります。而して倫敦市の費用を以て維持して居りますが、その始めは一八六五年の當時は倫敦市に居住して居る者から一人半片づゝ出し、保險協會から保險契約高百磅につき三十五磅づゝ消防に寄附させる、國庫からは年額一萬磅づゝ補助する、町承知の通り英國といふ國は非常に國粹保存の國で、前のことは變へないといふ方針で、現にこゝが残つて居ります、百磅について三十五磅を取ることも今もやつて居ります、國庫補助もやつて居ります、一八二九年に倫敦で蒸汽唧筒を發明して、尤も倫敦で發明して倫敦では使はなかつた、獨逸が買つて使つた、倫敦がこれを使ひはじめたのは一八六〇年でした、其から六十年を経過して、即ち一九二〇年丁度大正九年當時の状態は消防官及び所屬員が二千六百六十名、消防署及び署が六十九、水上消防署が三百四車唧筒が八十七臺、救助機械、梯子の類が八十八臺、その他運搬用救助用の消防所屬の自動車が七百九十臺、消防船が四艘、火災報知器が千六百十二臺、市内消火栓の数が三萬百三十三個、現に使つて居る水管の延長が八十哩といふ風になつて居ります。而して現在の火災は大正九年度に於て一年間の出火度數三千七百四十三回、報知器で火事の通知を受けた數が四千三百二十回、これを見るに、出火度數より報知を受けた數の方が多し、これは悪戯も

先づ似て居ります、大體米國では英國に比べると金をかけて居ります、仕事が大袈裟であつて、消防隊を二十六隊に分ち、二十五箇所に配置して、その下に分署、出張所、機械置場といふものを百七十五箇所に配置して居る、全體からいふと配置場所の數が二百箇所ばかりになつて居る、主なる機械の數は唧筒、梯子、その他キシカロインと稱する化學上の消化器、救護車等大體に於て三百臺の數になつて居ります。米國で一般消防設備に重きを置いて居るのは火災報知器これは桑港にしても、市我古にしても、丁度中央電話局似たやうな中樞に報知ステーションが置いてあります、そこで各方面との聯絡を取るそこへ行つて見て居ると一寸の間に火災通知が来る、通知を受けて、その方面の消防署へ繼いでやる、第二の報が来る、鎮火したとか、尙然へつゝあるとか、梯子を要するとか何とかいふ聯絡が非常によく取れるのです。東京あたりでは機械を出して仕まつとまだ燃へて居るのか鎮火したのか、まだ機械が要するのかサツパリ分らない、種々と市内の電話線を使ふやうに工風をやつて見るけれども、少し火災が大きくなれば電話は通じないし、傳令を以てするといふやうなことで、却て困難であります、米國ではさういふ聯絡をうまく取つて居るのであります、市我古は新開地である故かも知らぬが出火が非常に多い、大正九年度に一萬四千四百七回になつて居る

倫敦あたりの數倍で、殊に報知器より火災の報知を受けた數は二萬六百三十二回である。實際の火事は一萬四千四百七回で報知の方が多いことは英國の例に似て居ります。この報知器は市街の一面以内の道路の左右に交互に立て、その數は約三千といふことである。水道のことは後にも話しますが、市我古の水道は私設のもので、消火栓は十間おきに一個位になつて、それが地下式でなくして、上蓋を開けて、それへつけるのでなくして、約二尺五寸乃至三尺位の、入道と車道との境に交互にスタンドパイプになつて居ります。消火栓を探すといふ譯でなく、容易に使用が出来、その數は三萬千五百五十六個になつて居ります。水道の鐵管、これがまた却々大きい、延長が二十五萬三千九百九十四呎で、その中一番大きのが二十四吋、十六吋、十二吋、八吋、六吋とあります。東京では四吋といふのがあつたやうな譯ですが、米國では六吋以下はないのであります。經費は五百一萬七千九百八十仙、丁度人口一人負擔二弗幾らで、火災は多いが損害は少ない、五百七萬七千二百三十二弗死傷者は四名の死亡と六十四名の負傷者、人民の方死者三十九名、負傷者が百二十名といふ事でありませうが、紀元千六百五十九年今より二百六十三年に始めて組織されたその當時は二百五十個の革製のバケツを以て水をかけて居つた、千六百七十六年に市街防火壁設備條例といふ

ものを設けたのでありますが、それがよく符はれなかつた之は緋育の事で、獨逸では國運の隆最も昌な時、當時のウイルヘルム皇帝が市内は十戸乃至十六戸毎に防壁を拵へるやうに條目を出して餘程勵行したからだのですが、經商關係から出来なかつた、緋育でもさういふ譯であつたと見へる防火壁は出来なかつたが、建築條例といふものは嚴重なもので、其より十年後一六八六年に室内に煙突一個あらとこのにはバケツ一個を備へておけといふことで、かゝる英例からハンドポンプを買ふといふやうな始末から、日まで進んで居ります。尤も緋育は大きい、東京とは違ひますが、市我古は今申上げたやうに進歩をして居ります。日本の東京と似て居る市街ですが。

▽日本はどういふ風か

そんなら日本はどういふ風になつて居つたか。御承知の通り、徳川時代には幕府の火消役といふものがあつて、公設火消しの之か始めて、倫敦に大火のあつた十年後一六五〇年頃から町火消しといふ者が出来、武士火消しといふものも出来た、明治十八年に始めて蒸氣ポンプが英國から来た譯であります。現時の地方消防組といふものは、治二十七年に地方の青年壯丁を以て防火に當らしむるといふ組織で、今日になつて、現在各府縣の消防組數は九千二百六十

す。その他自然發火とか、藥品とかいふものがあります。先づ極く纏まつたところではこんなもので、無論日本のやうに炬燵、火鉢はないけれども、歐米では煙突、ストーブといふこれが日本の炬燵安火に類似したものであります。而して一體何うして、そんなに火災が多いか、これは考へ物である、或、相當に議論もありませんが私は斯様に考へる火事が怖くつて火の用心をするといふのは幼稚な時代である、火の用心はせぬでも、火事が出しても直に消へてしまふやうにすれば、火の用心と心配することはないでせう。火の用心は何の爲にするかといへば火が起つたら大變だからする、日本のやうな状態では、どうしても火の起らないやうに用心せざるを得ない、火事が起つたら極く大々たる、實際家屋、状況、道路、水利その他の設備は消防の熱練、練で、點からいつてまだ火が起つても大丈夫大きくはならぬといふことは考へられない、それだから到るところ御承知の通り防火宣傳をやつて注意を促し、自覺を促して居りますが、これがまた金を費やし、時間を費やし、努力を費やして居るので、今日では巴むを得ない事柄であります。併し歐米ではさうでない、火事が起つても大きくならない設備が出来、居ります。チヨット煙が出たら直に知らせる、知らせると機械が飛んで来る、機械が来れば何處からでも水が出るといふ準備がある、また家屋その

三組あるのであります。その指揮官として組頭と稱する者及びその下に小頭、組員があつて總數百三十四萬四千六百四十八人あります。現在の地方消防組の經費は、百二十五萬二千六百六十圓十五錢七厘に達して居る、殊に近頃は地方の名望家代議士とか市會議長とか、町會議とか、その他議員の職などにある人が組頭になつて居るやうで、却々盛大な陣方があるやうであります。日本全國の出火度數を見ると、極く新しいところは今も申したやうに分りません、大正七年に一萬五千八百二十七回あつた、丁度緋育又は市我古の度數と日本全國の度數と同じ位の割合になつて居ります。火災の度數が少ないといふことに於ては、さういへるが、その損害はどうか、大正七年度に於ては、三千三百九十四萬千四百六十五圓といふことになつて居る。死者は男子が二百五十二人、女子が百六十四人、これは多い方ではないが全額に於ては多い。

●英國に火災度數の多い譯

それで考へるに何うして英米がそんなに火災の度數が多いか、その原因はどんなものか、たとへば英國で申しますと、大正九年度に於て三千何百回の出火度數中二百七回は煙突三百十三回は煙突よりの飛火、千五百九十回は蠟燭、百五十回は電氣斯ういふものが主たる原因になつて居ります。

物が防火上の設備がして構造してあるし、四十秒間に鉄線
 彼座が燃へたといふやうな譯とは違ふ、一戸の家が燃へて
 しまふまでには時間が掛る三四時間に數百戸の家が燃へる
 といふやうなことは想像がつかぬといふ位で、火事が起つ
 てもさう大きくなるべき患ひがない、どうかしてこの間の
 市我古のやうな間違つた火事もありますが、あれなどは例
 外で非常に珍しい、煙草の吹殻でも踏消すといふやうな風
 のところへ用心をする頭は持たぬ、それよりはモット自分
 の仕事の方へ頭を使つて、そんな事で火事が起つても消防
 の方のはそれは設備にまかせて置く、だから火事はあつても
 大きくならぬ、火を大切にしないとといふ事が外國人の特徴
 のやうにも思へぬが、さういふ考から來て居るのではない
 かと思ふ、幸に日本は度数が少ないからよいが、外國のや
 うに多かつたら大變です、今日では言傳の効果なども大變
 にあるし、好い傾向になつて來ましたが、悲しいことには
 設備が不十分である。日本では火災度数が少ない、歐米で
 は多い、けれども其の損害を比較して見ると分り、例へば
 英國では三千七百回の平均を取つて一回の損害は五百七十
 磅、米國では九百二十五弗、東京はどうかといふと二千五
 百五圓になつて居ります、無論弗磅と圓とは價值が違ひま
 す、けれどもその國の單位、價值として計算して見ても、何
 れを見ても東京が多いことが分る、出火度数が少なくて損害
 が多い。

▽家屋のことに就て

それから家屋のこと、之は後でお話するつもりでありま
 す、チヨット序に日本、殊に東京あたりでは三階以上の
 建物が建つたのは明治の末の方であつて、それ以前は二
 階建までであつた、近頃では數階の高い家が建つやうにな
 つたのでありますが、それは極く近頃で從來は皆二階三階
 位のものでありました、然して外國と違ふところは門と
 か塀とかいふもので、外廊を圍むといふ習慣が日本では昔
 通で、門を又の玄関を通るのでありますが、併し中へ入る
 と解放的であります、何方へ行かうと縦横自在であるが、
 外國ではさうでない、中へ入つたら最後一室から隣りへ行
 くには嚴重な扉があつて、鍵をかけてあつたりして、解放
 的でない、一室から一室へと構造が嚴重になつて居ります
 其から市街地では空地が無い、之を隣接郡部へ廣げて行く
 ことは交通往來に時間が掛る、だから平面的に廣くするこ
 とは避けて、空間を利用して平面的から立方的に建てる方
 がよいといふことで、家の構造が段々と高くなる、従つて
 その裏に貧民窟が出来るといふことになつて、こゝに貧民
 の不平の起るやうな譯であります、生存競争に打勝つた者
 は高層に住つて自分一人で太陽の光を受け、新鮮な空氣も
 吸ふ、生存競争に敗れた者はその高層の裏屋に住つて太陽

の光も、新らしい空氣も受けられない、ミア等は社會政
 策の問題であります、近頃道路の廣さに併行して建てな
 ければ不可ぬ、そんなに馬鹿に高くつては不可ぬといふ説
 んありますが、兎に角複雑な高い建物が立つやうになりま
 した、ですから從來火災の場合に若し逃げ遅れて焼死んだ
 ならば、それはその人の過失であつた、その人の平素の注
 意心得が悪くつて焼死んだのであつて、消防は責任を負ふ
 といふことは出来ない、それは家は平面的で、然かも解
 放的であつたからですが、近頃はさういふ風に行かない、消
 防といふことは火を消すのは先で人を救ふのは後でよいと
 いふ譯には行かない、高い建物で多勢居る所では自衛的保
 安設備があつても間に合はぬ場合もある、其場合には人命
 救助といふことを消防が第一にやり、第二に防火といふ事
 になる、東京ではさうは行かぬ、家が平面的になつて居る、
 室は解放的のもので、風下でもあれは五分間位で燃へて
 しまふだ、からその附近の狀勢を見、その水利等を考へて消
 防に努めて、それから餘裕があれば人命救助といふことを
 考へて居つた術があるやうであります、これは習慣もあら
 うが又家屋の構造もさういふ關係があつた、併し外國で
 は周囲は不燃焼物を以て圍つてあるから打擲つて置いても
 その部屋だけ、屋根まで燃へ抜けても四方の聯絡が絶へて
 居るから、それで四方の壁が落ちるといふ状態でありませ

の手とかいふやうなところは富豪は居るけれども、その家の中に總ての財産がある譯ではない、家は豪富であるか知らぬが、その家に蓄へて居る譯ではないといふ理由の粗にする、歐米では斯ういふ主義であります、日本では公平主義を取つて居る、これは大々違ひます、その代り外國では高い建物の多いところには大きいポンプを置くとか、高い梯子を配置するとか、低い家の多いところには小型のポンプを取つて居ります、全體の配置の結構からいつてまア三分に五六臺のポンプの來ないところは無い。

▽消防に聯絡統一の必要な所以の一例

初めに消防機關その他の聯絡統一を保つ必要のあるといふことをお話をしましたが、この例をチョット申上げて、今盛んにやつて居る例をお話します、合衆國では國民的の防火協會を拵へて居ります、その趣旨は火災の豫防とか、防火の施設とかいふやうなことは、これは全然政府とか、官廳とかに打任せて安心して居るものではない、十分にその目的を達するのには、一般にその必要を諒解せしめて、殊にこれに直接關係のある火災保險協會、電氣學會、災害防止會、或は電氣協會とか各種の公設又は私設の團體が援助を與へ、または聯絡を保つて、而して始めて効果が擧る

有力なる團體と認めらるゝのは官公私設を問はず、團體會員として代表者を選んで、而して制規の會合を開いて、問題を出して研究をする、研究をした結果は火災防止規則となつて理はれる、丁度東京の、日本電氣學會が電氣事業取締の規則について非常な權威ある意見を發表するところになつて居りますが、それと同じやうに火災の防止或は設備といふものに關して意見を出す、この協會が出したものは大體の骨子として重きを置かれて、權威を以つて居るといふことであります、従つて總裁には副統領位を擧げる、副總裁にはその都市の市長を置くとかいふやうにして權威を持たせて居ります、斯ういふことは非常に善いことで私は將來日本にも出來ることと思ふ。

▽消防と道路

次に消防に至大の關係ある道路のことを申上げます、地方により土地により一定する譯には参りませんが、唯モウ少しはどうかなりさうなものだといふことを常に思ふ、これについては聊か米國の狀態を例に申上げたと思ふ、云ふまでもなく米國は四十八州から成つた合衆國で、その面積は三百五十七萬四千方里ある、紐育、桑港といふ所は勿論何れの都邑へ参つても皆忙しさに働いて居りますが、その頭の置る所が如何にも一厘一毛が惜しき事に大事に

一般消防に就て

べきもので、それは役人のするものだ、警察のすべきことだといつて任せて置くものではないといふ趣旨から、十年前に今協會が出來あがつた、今日では唯だこれ米國だけの協會に留めないうで國際協會の意味に於て即ち外國全部に於て東京大阪までも宣傳して來まして、或は火災の種類を知らしてくれ、機械の狀況を知らしてくれといふやうに項目を書いて、それに書込んで送つてくれと尋ねて來て居る、これは何の爲にするかといふと會員を募つて會費を取るといふ意味でなくして、實際に於て、研究の資料を世界に求めて研究しやうといふ眞面目な考へでやつて居ります、そこで四月の八日から十八日まで桑港で大會をやるとうか來てくれ、その場合には成べく大勢の人に集まつて貰ひたい、尚これだけの事を答へてくれといつて希望して來て居る、唯自分の國で自分の國の事柄をやるといふ意味でなく、世界に知識を求めてやらうといふ、それでこれが何ういふ組織に つて居るかといふに、會員といふものは個人の會員ではなくして、團體が會員になつて居る、團體から選拔された人間が會員に列する、會費は團體で拂ふ、個人を以て會員として居ない、普通會員といふのは火災により生命財産の損失防止に賛成する國家的營造物、官衙、學校或はこれに關係ある火災保險協會、病院、鐵道、省、或は電氣事業協會その他半官半私のものづれもその都市に於て

して、これは各府かのやうに見ると、女中を買物にやるにしても定つた金だけしか持たせてやらない、釣銭はお前が取つておけとか、買物をして、釣銭は要らぬとか、そんなこととはしない、だから旅行者が富豪の真似たやうなことをしても馬鹿に思ふ位で釣銭などもチャンと勘定をして足りなければ足りない、一錢一厘でも受取るべき金は受取るといふ風で、所謂勘定高いのですが、そんな具合だから公共事業だとか、或は道路工事とかいふやうな金の負擔を惜しかりさうなものだが、その方は些とも惜しからぬ、それは廻り廻つて自分の利益であるといふことを感ずる、今直ぐに自分の懐ろが儲かるといふ譯ではないが、將來を察して莫大な金を道路に使つて居る、現在米國の道路で一番狭いところで四十呎、六十呎、八十呎、百呎といふやうな譯でポンプの通りぬやうな道路はありません、大變に力を注いで、それ程費用をかけてあるから、また大事にして十二時から二時三時の間は運搬自動車を通るのでありますがその後から撤水自動車を出す、或は塵芥を除却するとか、順々に番を定めて、綺麗にして、翌朝見るといふと、雑巾で拭いたのぢやないかと思ふ位になつて居る、この掃除人夫は日に二時間位で済むのであるが、その賃銀が五圓であつた、紐育には道路掃除課長といふものが市に居りますが、その年俸だけでも一萬五千圓取つて居る、而して東京のやうな道路

の使ひ方ではない、人道車が區別してありますが、車道の方には何も置かせない、車だつて留めておけない、それ人間が車を引張るといふことは禁じて居りませぬ、だから商品のやうな物も置場所がないから、人道的下を無償で使ふことを許して、店先に穴蔵を拵へて自己の商品を保管して居ります。而して途上は使はぬ、總て穴蔵を無償で使ふその代りに人道の維持はその店にて負擔しなければならぬ朝の七時までに各商店では人夫を雇つて掃除をさせ、塵埃などは畫の方の人夫が来て集め、自動車も引つくりなした飛んで来て持つて行くといふ風で、さういふ場合に掃除をし、道路を大切にして居ります、其から市内には自轉車を見受けない、郡部にはありますが、それからオートバイも見受けない、馬車はありますが、少ない、英佛は馬車が多いが、米國は少ないこれは動物愛護の精神から来て居るので、馬車の場合には馬一頭について重量といふものが定つて居る、違反者は嚴重に處罰するので、到る所に重量を測るメートルがあるのだ、そこを通過したものは分るのでありますが、之は動物愛護の意味から来て居りますが、速力を一定する方針を取つて居るので、速力の早いやら遅いのやらあると危険が多いのであります。米國では中央を電車を通つて居る、その左右を自動車を通る、その外側を馬車を通る、速力の遅いものが段々と外側を通るのです

が、外國では巡査が一人でやつて居る、これは整理の趣旨が自動車、電車にある、人の整理はしない、救護は別なんです、それで普通の交通整理をして自動車の整理をして居るので、十字街になつて居る中央に立つて、左右を通じたら前後を止める、前後を通じたら左右を止めるといふやうに交互にやつて居る、許した方を自動車と一緒に人間が通るので、そこを人間が通つて行く、踏切るといふ事は自分で勝手に危くなくやればよい、そんなお世話はよくない、巡査は自動車を整理するが、人のことは人自身がやればよいといふ方針であります、だから老人とか、さういふ危険な人は難番の時間、午前九時前後、午後の六時といふやうな時には出ないといふやうで、私なども殆ど見受けなかつた。況や杖を突張つて歩く者などは一人もない、若し出れば保護者が尾いて居なければならぬ。

さういふやうな道路の中へ消防自動車通過するので先刻も申しましたやうに一晚の中に或は七八回も出て行く出て行つたかと思ふに歸て来るといふ具合に、而してそれが六十哩、七十哩の速力を持つて居りますが殆ど全速力を出して驅けて行くのです、でこの消防自動車が遠くから来る、警鐘が聞いたら電車も留まる、自動車も留まる、消防自動車の通行し易いやうによくて、而してポンプを通す、その點は非常に好意を以て、便宜を計つてやるやうにする

が、馬車だつて今の通り重量に制限がありますから、愚圖く歩くものはない、早足のものばかり日本のやうな車力といふものもない、人力車は無論ない、馬力か、ガソリンか、電氣かで引張るので、自動車の速力は七哩か八哩でせぬから、若しも前の自動車を追ひ越せば處罰される、處罰する方針は人を轢いたとか何とかして事故を起した者を罰するよりも事故を起さない、つまり豫防的規則を破つた者を嚴重にする、置くべからざるところに置いた、速力の制限のある場所を制限を破つたといふ者は必ず罰する、若し人を轢いたとする、日本人が時々轢かれた話も聞きました、轢いた場合は何處であつたか、踏切道路以外のところ、轢かれた者は、大抵轢かれたものゝ負になつて居ります、而して交通事故を裁判する裁判所が別に出来て居つて、そこに呼出されて両方を調べる、通行すべからざる所、巡査の制止して居るところを任意に通つたものなれば、これは轢かれたものが過失であつて、轢いた者は處罰されない。その代り制限その他規則に觸れたなれば轢かない前でも嚴しい、それで交通整理の模様を見ますと、東京あたりでは電車線路の交叉點では巡査と電車のポイントメンと兩人立つて居るが、これ、東京では引返し線とか、運轉系統が十分でないところから、あゝなつて居るのであります

だから易々と通ることが出来るので、これは久しい習慣であります、我々羨ましい位、さうか斯ういふ習慣が出来たからと思ひます、また緋育は夜になつたら消防が通るからといつて市街に面したところへ蠟燭を貼っておくといふ規則が出て居ります、丁度私が行つた時に練習所を見せて貰ふ管で、所長用の赤自動車に載せて貰つて出かけた、火災に行く途中ではなかつたけれども、ベルを鳴らして、非常な速力を出して四辻の所へ行く、横の方から自動車来て、前を通過して行つた、外の自動車が来て前を通過して行つた、外の自動車は皆留まつた、すると丁度署僚警部見た様な人が其通過した自動車を大變に叱付けてバックせよといつてひどく怒つたので、何故そんな事をするのかと聞いた、何にまた遠來のお客さんが載つてお出でだつたから助かつたのだ、さういふなければ白非か二百兩の罰金を仰付かるのを連の好い奴ですといふ話で私は實に消防の活動上此の恩澤を受けたと思つたのです。

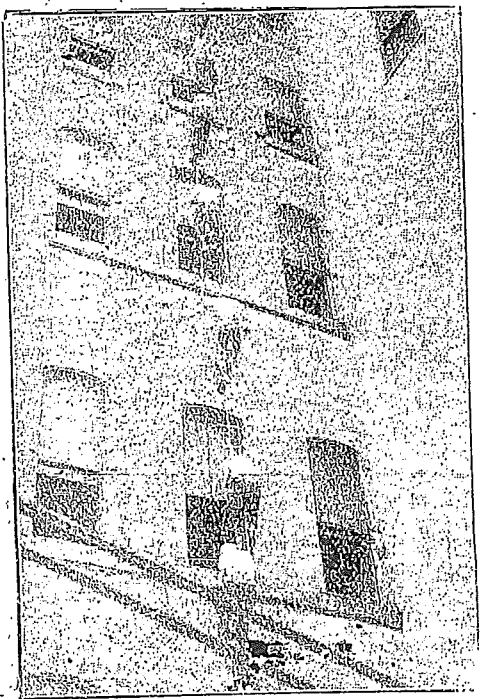
▽道路の廣狹に應ずるポンプの種類

それから直接道路に關係はありませんが、ポンプの種類が道路の廣狹に應じて、餘程研究してある、廣いところは非常に大きなポンプを使ひ狭いところは割合に小さいポンプを使つて居る、米國は外國からポンプを取寄せるといふや

争は仕ないで、内地で拵へて居りますが、その中に太平洋沿岸は何處の會社北部方面は何處の會社といふやうに繩張りみたやうなものが出て居る、そこはエウ競争はしない、その以外のところで賣込みに拵めて居ります。日本は自國で出来ないから、世界の競争地區になつて居りまして、種々難いものが賣込みに來て居りますが、道路の廣

狭家屋の大小水利の如何等を考へて選定しないと外はのびンブが皆よいと思ふと大變で、その國々の特徴があつて、他に持つて行けば必しもその特徴を發揮しない點も少りますから、これは能く研究しなければその特徴といふものも効果が薄いと云ふ譯になります。(文實社記者)

階梯練習



是は米國紐育市の消防練習所に於て練習生が階梯の昇降を演習する有様である。寫眞は朝鮮總督府警察官講習所教授山田一隆氏が警察講習所長松井博士へ寄贈せられたものである。

岩手縣警察官 三府四縣見學旅行記

岩手縣警察部 柴田政治

(二七七號起)

四、京 都 (承前)

それより警備部の案内を受けて署の隣にある東本願寺を觀た、茲は眞宗大谷派の本山で頗る大きい建物だ、幾度か火災にあつて今の建物の落成したのは明治二十八年本尊は云ふ迄もなく阿彌陀佛、大師堂には宗祖親鸞自作の木像を安置してある、女の手髪で出來た大繩が珍しい。

寺の東に近く法主の別荘なる枳殻邸がある、河原左大臣舊苑の跡で殿舎林泉の美を以て聞へて居る。

それより東山を一巡せんとして大和大路に出た、左が帝室博物館豊國神社、大佛、妙法院、右が三十三間堂、養源院、三十三間堂は後白河法

皇の法性寺殿の跡で、法皇が平忠盛に奉行せしめて建立せられた蓮華王院と云ふのが本名である、今の本堂は建長三年の造營で京都に於ける古建築の優秀なもの、南門と共に特別保護建造物である、「三十三間堂棟木の由来」お柳やなぎのことが思出される、中に千手千眼觀音像一千一體二十八部衆を安置してある。堂の裏には大矢敷てふ射式を行つて居る昔の人々が通し矢をした額が澤山かゝつて居る。

三十三間堂の前の養源院には伏見落城の悲惨な記念血天井と云ふのがある等だか之を見て暇がない、妙法院に來た之は延曆寺の別院で文久三年三條實美等七卿落の議を決した

のは此處の寢殿である、玄關、大書院、庫裏など特別保護建造物となつて居る。

妙法院と電車を隔て、西が大佛殿秀吉の建てた方廣寺である、大佛は六丈三尺もあつたので奈良の人佛より一丈も高いものを作つたのは人間の氣宇が偲はれて面白いが、夫は地震で崩壊し秀頼の再建の時の梵鐘の銘に「君臣豐樂、國家安康」の文字のあつたのが大騒動の初まり、大阪兩度の役となつて家康は秀頼をいぢめぬいた、其の恨みの鐘は鐘樓にあつて金を出せばつかせてくれる。國家が康の文字なども見へて居る、それより五條坂を登つて西大谷に來る此の坂は景清と阿志原との闘つ様